

第202回（令和3年5月30日施行）

基礎簿記会計

第1問〈帳簿記入についての出題〉

記帳の対象となる取引（帳簿に記入すべき出来事）の理解を確認するため、簿記上の取引を判断する問題を出題した。

1. 盗難によってなくなった店舗にあった商品という資産に係る判断を確認している。
2. 店舗建物に対する火災保険契約を結ぶために発生した保険料という費用に係る判断を確認している。
3. 商品の注文時点での商品という資産に係る判断を確認している。
4. 営業用車両の購入契約時点における車両運搬具という資産に係る判断を確認している。

第2問〈簿記の出発点である仕訳（複式記録）を問う出題〉

帳簿記入のための手続きは、仕訳帳に記入することから始まる。そこでの仕訳とは、取引によって増減変化した資産、負債、純資産（資本）、収益、費用の勘定科目を、金額と共に左側（借方）または右側（貸方）のいずれに記入するかを決定することである。ここでは基礎的な取引について仕訳の理解を問うている。

1. 町内会が管理する町内会館の電気料金を支払った取引である。発生した水道光熱費（費用）と現金（資産）による支払の記帳を問うている。
2. 町内会が預けている銀行預金（普通預金）に利息が発生し、銀行預金（普通預金）に入金された取引である。発生した受取利息（収益）と、普通預金（資産）の記帳を問うている。
3. 町内会が町内会費を集金した取引である。町内会費収入（収益）と、現金（資産）の記帳を問うている。
4. 商品販売業者が、自らの経営活動に使用するために土地を購入した取引である。購入した土地（資産）と、支払った現金（資産）の記帳を問うている。
5. 商品売買業者が商品（テーブル用木材）を購入した取引である。購入した商品（資産）、支払った現金（資産）及び掛け代金、つまりの購入代金を後で支払う債務である買掛金（負債）の記帳を問うている。
6. 商品売買業者が商品（テーブル用木材）を販売した取引である。商品（資産）を販売し、引き渡すことによって発生する商品販売益（収益）と、商品代金として受け取った現金（資産）の記帳を問うている。
7. 後払いにしておいた商品代金を現金で受け取った取引である。回収した売掛金（資産）と受け取った現金（資産）の記帳を問うている。

8. 銀行預金（普通預金）に現金を預け入れた取引である。普通預金（資産）と現金（資産）の記帳を問うている。

第3問<会計の構造に関する出題>

期首の貸借対照表を出発点として経済活動が始まり、期中の様々な利益を獲得するための経済活動を経た結果、期末の貸借対照表が表す財政状態となる。また、期中の様々な利益を獲得するための経済活動の成果（経営成績）を表すのが損益計算書である。この貸借対照表の構成要素である資産、負債と純資産（資本）の金額の関係、また損益計算書の構成要素である収益と費用の金額の関係を問うている。さらに、貸借対照表と損益計算書それぞれの構成要素から当期純利益を計算できるが、この当期純利益を介した貸借対照表と損益計算書の関係についての理解を問うている。

第4問<会計報告書（収支計算）の作成に関する出題>

1か月の収支計算を示すことによって会計報告を行う場合には、前月繰越金から出発し、報告する1か月の活動による変動を経て、次月繰越金に至ることを示す会計報告書を作成する。

本問では、現金出納帳の記帳からマンション管理組合の会計報告書（勘定式）を作成できるかを問うている。解答に際しては、【解答にあたっての注意】にあるように、複数ある支出項目については、指定された順番で記入することに注意する。

第5問<会計報告書（損益計算）の作成に関する出題>

期末の会計報告は、期末の財政状態を示す貸借対照表と、当期の経営成績を示す損益計算書の2つの会計報告書を作成することによって行われる。

本問では、与えられた元帳の各勘定科目の残高から精算表を作成できるかを問うている。解答用紙にあらかじめ示されている勘定科目について、借方残高であるのか、貸方残高であるのかを正しく判断できているか、そして作成した残高試算表欄から損益計算書欄と貸借対照表欄を正しく作成できるかを試している。